

挨拶の力

新宮市立城南中学校 3年 大 矢 葉 奈

私は四月から、生徒会の一員として朝の挨拶運動を行っている。週に三回、生徒玄関の前に立ち、登校してくる人に「おはようございます。」と挨拶する活動だ。私はこの活動を通して、挨拶が持つ力や大切さ、自分自身の意識の変化に気づかされた。

挨拶運動を始めたばかりの頃、「無視されたらどうしよう」「うっとうしく思われたりしないかな」という不安でいっぱいだった。そのせいか、あまり大きい声で挨拶することができていなかった。挨拶運動を始めてから、ごく少数ではあるが、何も聞こえていないかのように通りすぎて行く生徒もいて、悲しくなった経験もある。しかし、活動を続けていくうちに、初めよりも挨拶を返してくれる人が多くなったように感じてきた。挨拶をすると、しっかり私の目を見て、元気よく「おはようございます。」と返してくれる人もいる。その姿を見ると、心が温かくなり、自然と笑顔になれる。挨拶を返されることが、こんなにも嬉しいことだと、この活動を通して実感することができた。

私は今まで、挨拶は返されるためにするものだと思っていたが、活動を行う中で、この考えが間違っていたことに気づかされた。それと同時に、挨拶の持つ力を知ることができた。挨拶は、人を元気にさせる力がある。人と人をつなぐ第一歩になるものだと私は信じている。自分から挨拶をすることで、誰かを少しでも明るくできるなら、それだけで意味があるのだ。

活動を通して、私自身の心にも変化があった。以前までの私は、朝が得意ではなく、ダラダラと学校に行っていた。しかし、挨拶運動を始めてからは、眠気は残っていても、朝から声を出すことで気持ちが引き締まり、前向きな気持ちで一日を始められるようになった。自分から笑顔で挨拶をすることで、心にも余裕が生まれた。

挨拶の大切さを感じたのは、挨拶運動だけではない。

私は女子バスケットボール部に所属している。入部したての頃、当時の三年生には話しかけやすかった。だが、二年生とは関わりが少なかったこともあり、自分から、二年生の先輩に話しかけることができなかった。結局、学年が上がってもぎこちない関係は続き、そのまま先輩たちは卒部してしまった。「もっと先輩たちといい関係を築きたかったな」と後悔した私は、現在キャプテンとしてチームメイトへの挨拶と声かけを心がけている。初めは挨拶運動のときと同じように、挨拶をしても会釈で返されることが多く、最近入部した一年生とも少しぎこちない関係だった。けれども、挨拶を続けていくと、後輩の方から挨拶をしてくれるようになった。また、後輩から私に話しかけてくれることも増えてきた。先輩・後輩という関係にとらわれすぎず、お互いに話しかけることができる関係になれたことで練習にも大きな変化が表れた。今までお互いに遠慮しながらの練習が、コミュニケーションをとりながらの練習に変化していった。そして、後輩から話しかけてもらえることがとても嬉しいことだと知った。部活内での他学年との関わりの変化や、新たな喜びの発見を身をもって経験し、挨拶・声かけを心がけてきて本当によかったと感じる。これからも、挨拶を大切にし、チームメイトと良好な関係を築いていきたい。それを続けていくことで、クラスメイトや関わる機会の少ない他学年の人たち、地域の人々と良好な関係を築くことにつながるのではないだろうか。

私は、挨拶運動や部活での経験を通して、挨拶が持つ力や大切さを知り、日々の積み重ねが周囲に与える影響も学ぶことができた。どんなに小さな行動でも、続けていけばそれが人に伝わり、大きな変化につながる可能性がある。この学びを得たことは私にとっての大きな成長だと思っている。

これから先、社会に出てからも挨拶を大切にしたい。「おはようございます」「ありがとうございました」「いただきます」「ごちそうさまでした」などの挨拶を、口で言うのは簡単だ。だがそれらは相手を想う気持ちを込めて伝えることが重要だ。挨拶がもつ役割、それは、人間関係を築くうえで欠かせない基本であると同時に、お互いを尊重し合うための第一歩なのだと、私は確信している。